

[原著論文：査読付]

国際交流における留学生の受入と学生の海外派遣に関する一考察
——上海海洋大学における中国文化体験プログラムを中心に——

黄 冬柏¹⁾，沙 秀程²⁾，荻原 桂子³⁾，劉 軍⁴⁾

A study on Student Acceptance and Dispatch through
International Exchange
: Focusing on a Chinese Cultural Experience Program in Shanghai
Ocean University

Dongbai HUANG¹⁾，Xiucheng SHA²⁾，Keiko OGIHARA³⁾，Jun LIU⁴⁾

Abstract

In this paper, we will investigate the process of overseas student's selection at Shanghai Ocean University. We will also look at the way they teach Chinese culture and the real situation of overseas students who were sent from Japan. Especially, through the Chinese cultural experience program, we have a deep discussion on student acceptance and dispatch through international exchange.

KEY WORDS : International exchange, acceptance, dispatch

1) 九州共立大学経済学部
2) 九州共立大学共通教育センター
3) 九州女子大学人間科学部
4) 上海海洋大学外国語学院

1) Kyushu Kyoritsu University, Faculty of Economics
2) Kyushu Kyoritsu University, Career and General
Education Center
3) Kyushu Women's University, Faculty of Humanities
4) Shanghai Ocean University, School of Foreign
Languages

1. はじめに

経済のグローバル化が進展する中、大学の国際化・人材の国際化のため、留学生の受け入れと学生の海外派遣が求められている。本学においても第2次中期計画（平成26年度～平成30年度）の中で基本目標の一つとして「海外協定校との国際交流を促進する」ことを定めた上、具体的な施策として、国際交流支援の強化、短期留学生の受入促進と海外留学の推進などを掲げている。つまり、海外研修・文化体験・短期留学などの国際交流プログラムの実施を通して、海外協定校からの留学生の受け入れを促進しながら、本学学生の国際社会への関心を高め、海外留学に繋げていく。

本稿では、海外協定校である上海海洋大学における国際交流と留学生受け入れの体制や、中国語・文化の教育法および日本への学生派遣の実態を調査し、とりわけ実施された中国文化体験プログラムを検証することによって、国際交流及び留学生の受け入れと派遣に関する諸問題について考えてみたい。

2. 国際交流における留学生の受け入れと派遣

上海海洋大学は、上海市政府と国家海洋局、農業農村省が共同で運営し、2012年に創立百周年を迎えた伝統のある大学である。14の全日制学院が設けられ、約12000人の学部生、2600人余りの大学院生が在籍している。また、1200人余りの教職員のうち、800余人が教員と研究者であり、主幹学部の海洋・水産・食品学部の他に、経済系学部・工学系学部および外国語学部も備えた総合大学であり、2017年9月に中国国家の「世界一流学科建设大学」に選ばれている。⁽¹⁾

上海海洋大学は国際交流を重視し、本学を含めて日本・アメリカ・オーストラリア・韓国など多くの国と地域の100あまりの大学および研究機関との協力関係を構築している。また、幾つかの国と地域の大学との間で学生の受け入れおよび派遣を行い、優秀な卒業生を国内外に送り出した。2017年現在、約600名の学生が海外の大学に派遣されていると同時に、38カ国と地域から129名の外国人留学生が在籍し、そのうち学歴生が77名、研修生が52名である。

上海海洋大学の14の全日制学院の一つである国際文化交流学院は、主に留学生を対象に漢語研修生・普通研修生・高級研修生と学部生および修士課程・博士課程を提供している。国際文化交流学院に在籍している留学生は、学歴生（学部・修士課程・博士課程）と

研修生（漢語研修生・専攻研修生）に分けられている。学部生の履修期間は4年間で、申込資格は高校卒業、HSK3級取得である。⁽²⁾ 修士課程と博士課程の履修期間はそれぞれ3年間で、HSK6級取得は必須条件である。「漢語研修生」は中国語を学ぶ学生であり、外国人留学生のために設けられた課程を履修する。「専攻研修生」は学歴によって「普通研修生」と「高級研修生」に分けられており、ともにHSK6級取得で、中国の大学で半年以上専門的な教育を受ける者を指す。

学歴生と研修生は学習課程に合わせてそれぞれのカリキュラムが組まれている。例えば、「漢語研修生」は、外国人留学生のために設けられた科目を履修する。必修科目は中国語の読解・ヒアリング・会話・作文・新聞雑誌読解・中国事情などがある。また、選択科目としては、ビジネス中国語・観光中国語・HSK受験指導・上海語・中国書道・中華料理作り・中国武術・二胡などが設けられている。さらに、学期ごとに1回、上海市内や周辺都市での学外語学研修を実施する。こういった科目の履修を通して、実践的な中国語を習得するとともに、歴史や文化面での知識も深めることができる。大学では、学位取得のための学部レベルの留学生教育体制の充実が最も重要視されている。学部留学生が入学した後、集中的に中国語を勉強させた上、試験の結果や本人の希望などに応じ、それぞれの学部で中国人学生と一緒に勉強することが可能となっている。

上海海洋大学は上海市政府の全面的なバックアップを受け、奨学金制度の充実から宿舍の整備・学習の指導まで、様々な支援策を積極的に打ち出して、優秀な留学生の受け入れや確保に力を入れている。2018年は短期研修生から学歴生までの留学生の年間受入人数は523名となっている。とりわけ学歴教育（学士・修士・博士課程）においては、優秀な留学生をより多く獲得するために、奨学金給付の種類や総額は年々増加している。中国政府と上海市政府の奨学金のほか、大学独自の「上海海洋大学学長奨学金」なども設けられている。

大学の各関係部署は密接な連携を図り、留学生のために最良のサービスを提供している。広大なキャンパスでは環境がよい、良質・低廉な宿舍を確保し、より多くの留学生が入居することができるようになった。また、年間を通じて催されている大学祭・コンサート・カラオケ大会・見学旅行などの多彩なイベントは、留学生にとってすべて忘れがたい思い出になるだろう。

一方、学生の海外派遣においても力を入れている。海外の大学と連携して短期研修から長期派遣までの様々な留学プログラムを組んで、積極的に学生を送り

出し、専門知識と外国語を学ばせると同時に、豊かな 交流プロジェクトは表（1）にまとめた通りである。
国際感覚を養成する。近年の日本の大学との主な国際

表（1）上海海洋大学と日本の大学における国際交流プロジェクト概要

プロジェクト名称	派遣学院（専門）	毎年派遣人数枠	期間
東京海洋大学学部研修生	生命・海洋・食品・経営管理学院	5	1 年
九州女子大学学士学位取得	外国語学院（日本語）	15	2 年
九州女子大学学部研修生	外国語学院（日本語）	2	1 年
九州共立大学学士学位取得	外国語学院（日本語）	15	2 年
九州共立大学学部研修生	経営管理学院	2	1 年
三重大学学部研修生	生命・海洋・食品・経営管理学院	5	1 年
北海道大学学部研修生	生命・海洋・食品・経営管理学院	4	1 年
東北大学学部研修生	生命・海洋・食品・経営管理学院	2	1 年
活水女子大学学部研修生	外国語学院（日本語）	2	1 年
活水女子大学学士学位取得	外国語学院（日本語）	15	2 年
高知大学学部研修生	外国語学院（日本語）	1	1 年
長崎大学学部研修生	生命・海洋・食品・経営管理・工程・信息学院	4	1 年
鹿児島大学学部研修生	食品学院	2	1 年

そのうち、外国語学院日本語学部は、最も早く日本の大学と交流協定を締結して国際化人材の共同養成に取り組んでいる。毎年の夏休み中に、10名の優秀な学生を選抜し、主に大学の助成で日本研修旅行（一週間～十日間）に参加させている。また、三ヶ月から一年間までの語学研修プログラムを実施し、学生のコミ

ュニケーション能力を高めると同時に、日本社会や日本人を客観的に理解する機会を提供している。さらに、本学を含めて幾つかの大学と共同で2+2、⁽³⁾ 4+1などのパターンによって人材を養成する。表（2）は近年における日本の大学と共同で国際化人材を養成する状況である。

表（2）日本語学部と日本の大学と共同で国際化人材養成状況

年度	人才養成パターン	人数	大学
2013 年度	交換留学	6	活水女子大学・北海道大学・高知大学
	2+2	10	九州共立大学・活水女子大学
2014 年度	交換留学	4	北海道大学・高知大学・三重大学
	2+2	17	九州共立大学
	4+1	1	桜美林大学
2015 年度	交換留学	5	活水女子大学・北海道大学・高知大学
	2+2	23	九州共立大学
	4+1	1	桜美林大学

3. 上海海洋大学における中国文化体験プログラム

（1）実施の背景

上海海洋大学は2005年11月に本学と友好交流基本協定を締結し、頻繁に相互訪問などを実施し、親睦を深めてきた協定校である。しかし、学生交流分野においては、同大学は2018年4月まで本学に162名の編入留学生・6名の短期留学生を派遣したのに対し、本学

は同大学に学生派遣を行った実績がなかった。

2016年5月、双方向的な学生交流を強く希望した上海海洋大学は、福原学園からの日本人学生の受け入れを目的とする中国文化体験プログラムを提案した。上海海洋大学外国語学院日本語学部と福原学園国際交流・留学生支援室に携わる教職員が周到に準備した結果、2016年8月28日から9月3日まで、「第一回上海海洋大学における中国文化体験プログラム」が13名の

学生と2名の引率教員の参加をもって無事に実施された。その後、上海海洋大学は実施した結果を高く評価し、継続的な交流を希望した。また、実施後に行われた参加者への事後調査で、本プログラムは殆どの参加

学生に大変よいと評価されたことから、本学の学生にとっても素晴らしい機会である事が窺える。今年度で3回を数える中国文化体験プログラムの参加学生人数は表(3)にまとめた通りである。

表(3) 中国文化体験プログラム参加者人数

年(回数)	九州共立大学	九州女子大学	合計
2016年(第1回)	7	6	13
2017年(第2回)	6	5	11
2018年(第3回)	10	9	19
合計	23	20	43

(2) 実施の内容

中国上海にある本学の友好協定校である上海海洋大学を訪問し、在學生と交流しながら中国人家庭および上海の名勝などを見学し、中国文化と民俗を体験した。出発する前には、学園国際交流・留学生支援室による説明会と事前研修を行い、中国の文化および風俗習慣を紹介した上、注意事項や現地の状況など海外での危

機管理に関する知識を指導して万全を期した。上海海洋大学と本学が一体となって本プログラムに取り組んでおり、日本語学部副学部長周艶紅先生をはじめ、4名の先生方および5名の学生スタッフという受け入れ態勢で我々を暖かく迎えてくれた。実施した第2回中国文化体験プログラムの日程および主な活動内容は以下の通りである。

表(4) 第2回中国文化体験プログラム(2017年8月28日～9月3日)

月日	時間	主な活動内容
8月28日 (月曜)	午後 夜	福岡空港発(CA916便)上海浦東空港着、上海浦東空港から上海海洋大学へオリエンテーション、歓迎夕食会
8月29日 (火曜)	午前 午後	開講式、文化交流：中国楽器鑑賞、日本人学生ダンス・演歌披露 中国航海博物館見学、南匯嘴公園・滴水湖散策
8月30日 (水曜)	午前 午後 夜	東方明珠タワー・上海民俗博物館見学、 家庭訪問(中国人の日常生活体験)、上海の名園——豫園散策、小籠包食べる バンドで上海の夜景観覧
8月31日 (木曜)	午前 午後	「赤い中国結び」・中国茶道の体験 日中学生卓球大会、日本語科学生との交流会、中国武術体験教室
9月1日 (金曜)	一日	上海ディズニーランド遊覧
9月2日 (土曜)	午前 昼・午後	振り返り・アンケート・閉講式 餃子大会 自由時間
9月3日 (日曜)	午前 昼・午後	上海海洋大学から上海浦東空港へ 上海浦東空港発(CA915便) 福岡空港着

初日は福岡空港国際ターミナルに集合し、諸注意事項を再確認して上海へ出発した。上海浦東国際空港に到着した後、到着ロビーで上海海洋大学日本語学部の学生が迎えてくれて、大学の専用バスに乗って研修先の上海海洋大学へ向かった。簡単なオリエンテーションを行なった後、歓迎夕食会が開催されて上海海洋大学の先生と本学の引率教員および学生と交流しながら本



写真1

場の中華料理を満喫した。(写真1)

2日目の午前中は開講式を行った。外国語学院日本語学部長梁暹先生が歓迎の辞を述べられ、同じく副学部長周艶紅先生が本プログラムに関する生活や研修内



写真2

容を詳しく説明された後、参加者による文化交流を実施した。まず、日本語学部の劉軍教授と黄春玉准教授がそれぞれ中国伝統的な民族楽器横笛と二胡を演奏



写真3



写真4



写真5



写真6

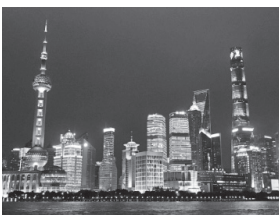


写真7



写真8

に説明されながら教えてくれた。(写真8) また、中国の茶道も落ち着いた雰囲気緑茶・ウーロン茶・ジャスミン茶・プーアル茶などを味わいながら体験でき

てくださった。(写真2) 皆は中国楽器の美しい音色にうっとりし、また実際に横笛を吹いたりして体験もできた。(写真3) その後、参加した日本人学生は中国語で自己紹介をし、上海で人気の高い谷村新司さんの「昴」を熱唱した後、皆で恋ダンスを一緒に踊った。(写真4) 午後は中国航海博物館を見学して南匯嘴公園と滴水湖を散策し、日中の学生同士が交流しながら歴史や自然に触れることができた。(写真5)

3日目の午前中は上海のシンボルである東方明珠タワーと上海民俗博物館を見学した。高さ468mを誇る東方明珠タワーの展望台からも周囲360度がぐると上海の全貌を見渡せた。上海民俗博物館では上海の歴史や文化を学ぶことができた。午後は、中国人学生の実家を訪れ、家庭料理を食べて中国人の日常生活を楽しく体験した。夕方からは上海の名園である豫園を散策しながら、現地の人々と触れ合うことができた。(写真6) また、地元の名物小籠包を食べた後、バンドで綺麗な上海の夜景を満喫して感動した。(写真7)

4日目の午前中は「中国結び」と中国の茶道を体験した。「中国結び」は赤い糸を使い、色々な形の結びを編むものでなかなか難しかったが、講師の先生が丁寧に

た。午後は日中中学生による卓球大会を行い、両大学の卓球名手が真剣勝負に挑んだ。上海海洋大学の代表は日本語学科出身でないため、日本語が通じなかったが、



写真9



写真10

の武術の先生が二種類の武術を教えてくれた。みんなは汗だくになって疲れたが、とても楽しかった。(写真10)

5日目は上海ディズニーランドを遊覧した。上海ディズニーランドはとても広く、アトラクションも日本より数多くスケールが大きかった。平日にもかかわらずたくさんの観光客で賑わっていた。日本人学生3～4人に中国人学生1人というグループに分かれて活動した。両国の学生同士が協力し合ってスマートフォンで待ち時間やアトラクションの情報を収集分析して効率よく行動していた。最後にシンデレラ城に全員が集まってプロジェクションマッピングと花火を見て感動し、思い出に残る1日であった。(写真11)



写真11



写真12

12) 昼は「魚情未了」というレストランで「餃子大会」を開催した。餃子の皮を粉から練って、皮を伸ばして餡を包むという本格的な作り方で、日本人学生と中国人学生が仲良く作業し、様々な形の餃子を作りあげた。

6日目の午前中は「閉講式」が行われ、一週間の研修を振り返った。参加者全員が一人ずつ感想などを述べ、その中に感無量で言葉を詰まらせて涙を流した日本人学生もいた。(写真



写真13

(写真13) レストランで用意された中華料理を加えて美味しい餃子パーティーとなった。午後からはグループごとに上海市内を観光し、市場やデパートなどをめぐり買い物をした。



写真14

最終日は中国人学生が空港まで見送りにきてくれた。お別れの時にそれぞれ持ってきたプレゼントや折り紙、手紙を交換し、涙をこぼした人が多くいた。短い一週間であったが、日中学生同士は友好の絆をしっかりと結べたと思った。(写真14)

(3) 実施の効果

参加した経済学部3名の学生が「百聞は一見に如かずー中国文化体験プログラムを通してー」というテーマで経済学部平成29年度海外研修・学生研究報告会において発表し、優秀賞を獲得した。中国文化体験プログラムを通して得たことについて、3名の学生がそれぞれ以下の感想を述べた。

テレビや新聞で見たことや、人から聞いたことで判断するのではなく、自分の目で見て自分の足で歩いて判断することが大切だと思う。バンドの夜景を見たこと、ディズニーランドに行ったこと、卓球をしたこと、中国人の大学生と交流したことなど、上海で経験したことが最高の思い出になって楽しかった。(経済学部3年・男子学生)

中国は、悪いイメージに思われているが、実際に行ってみると、自分がイメージしていた国とは全く異なり、すごくいい場所だった。このプログラムに参加して色々なことを学べて楽しかった。(経済学部3年・女子学生)

上海での体験を一生忘れないように私は五感全てを駆使して記憶に刻み込んだ。東方明珠タワーから見た上海の街並み、豫園での本場の小籠包の味や中国茶の香り、またバンドから見た最高の夜景。中国の武術も初めての経験が本当に誇らしい。上海ディズニーランドも日本では決して乗れないアトラクションに乗れて自慢できる。私の初めての海外が中国の上海で良かった。(経済学部2年・男子学生)

そのほか、スポーツ学部と九州女子大学の参加者も感想を寄せてくれた。その主な内容は以下の通りであ

る。

私の中で中国のイメージは反日であり、このプログラムに参加するか正直迷うところはあった。しかしそれでも、私は卓球の世界最強の国にはどんな文化があり、どんな人間がいて成り立っているのかという気持ちが高まって参加することにした。・・・現地の方はとても優しくて実際にその国を見てみないと、ニュースではわからない部分が多いと感じた。(スポーツ学部2年・男子学生)

中国に行く前までは、私の中の中国人の印象は良いものではなかった。マナーが悪かったり、危険な思想を持っていたりした。しかしこのプログラムに参加して、中国人の優しさや心の強さ、礼儀のあり方などを学び、中国人の印象がものすごく変わった。やはり「行ってみないと分からないことがある」と感じた一週間であった。(スポーツ学部2年・男子学生)

このプログラムに参加して私はたくさんの経験を得ることができた。中国に行くまでは、中国のことをあまりよくは思っていなくて、街も汚く中国人もマナーが悪い印象が強かった。しかし、上海の空港に到着して、お出迎えに来てくれた先生方や学生スタッフと会ってすぐ中国人に対する見方が変わった。上海海洋大学の学生たちはみんな優しく面白くて、日本語も本当に上手でびっくりした。何よりも先生方が本当にいい先生ばかりで、中国の先生はもっと厳しいと勝手に思っていたが、本当に先生なのかと思うぐらい親切に接してくれて嬉しかった。(スポーツ学部3年・男子学生)

何気なく参加した中国文化体験プログラムだったが、私にとってとても有意義なものとなった。以前は中国に対して、黄砂の影響で空気が汚れて、食べ物が安全ではないなどのイメージを持っていたが、それはあくまで世間では言われていることであって、実際に自分で見て確かめたわけではない。私は実際にこのプログラムに参加することで、中国の文化や食事、中国人の考え方などを実感することができた。(九州女子大学家政学部1年・女子学生)

今回のプログラムに参加して、メディアのイメージではなく、実際に自分の目で見て確かめることができて良かった。家庭訪問は旅行などでは経験できないのでいい経験になった。「中国結び」や「武術体験」などもできて中国文化についても学べた。大変貴重な経験をすることができて、プログラムに参加して良かった。(九州女子大学家政学部2年・女子学生)

反日がニュースのトピックとして取り上げられるこ

ともあったが、実際自分の目で、肌で中国を感じてきて、イメージとは違っていた中国。私は中国が好きで、優しくて親切な学生スタッフ、先生方、一緒に参加したメンバーにはとても感謝している。この縁を切らすことなく、これからも交流を続けたい。(九州女子大学家政学部3年・女子学生)

私はこのプログラムに参加して本当に良かったと思っている。中国に着くまでは不安ばかりであったが、上海海洋大学の先生や学生の手厚いサポートだったり、充実したスケジュール内容だったり、毎日が驚きと感動でとても濃い一週間だったと思う。自分自身ももっと頑張ろうと思い、さらにこのプログラムで出会った人たちは、一生のかけがえのない存在だと思う。(九州女子大学家政学部3年・女子学生)

今回の中国文化体験プログラムに参加して、たくさんの驚きや戸惑い、発見があったが、どれも今までに行った国と違った面があって面白かった。同じアジアでも、文化も習慣も結構違うのだと感じた。この七日の間にたくさんの体験が詰まっており、本当に楽しくあつという間の七日であった。この体験を残りの大学生活や、今後就職してからの人生にも活かし、様々な国籍の人々と交流して仲良くなっていきたいと思った。(九州女子大学人間科学部4年・女子学生)

一方、このプログラムにボランティアとして参加した上海海洋大学中国人学生のうち、二人が編入留学生として本学に入学した。また、今年の夏休み中、本学の学生一人が上海海洋大学に一月の語学研修に参加した。

このような双方向的な学生同士の交流を通して、海外協定校からの留学生の受け入れや本学学生の海外留学が促進された。グローバルな視点から、他者への寛容性、および自己発展のためのモチベーション形成など、大学生として必要不可欠な資質の涵養に繋がっていくことになった。

4. おわりに

上海海洋大学における国際交流と留学生の受け入れ体制や、中国語・文化の教育法および日本への学生派遣の実態を調査し、とりわけ実施された中国文化体験プログラムを考察してきた。海外研修・文化体験・短期留学などの国際交流プログラムを通して、海外協定校からの留学生の受け入れを促進し、本学学生の国際社会への関心を高め、海外への留学に繋げていくために、留学生教育に携わる者は、情熱と責任感および国

際理解の意識を持って職務を全うしなければならない。留学生支援制度奨学金の活用や、実践的な語学教育の強化、および単位認定などの課題が残っているが、大学の各関係部署は密接な連携を図り、可能な限り留学生のために最善のサービスを提供することが求められている。

知識基盤社会のグローバル化が進展する中、国境を越えた学生の流動性が高まり、大学における国際的な競争が激しくなるとともに、共同・連携の動きも加速している。募集から企業への就職(あるいは大学院への進学)などを含む出口までの一貫した留学生教育においては、大学の教職協同によるきめ細やかな指導とサポートを施さなければならないと思われる。

〔注〕

- (1) 世界一流大学と一流学科の建設は、「双一流」と略し、中国高等教育領域における国家戦略である。2017年9月21日、教育部・財政部・国家発展改革委員会は『關於公布世界一流大学和一流学科建設高校及建設学科名单的通知』を共同で公布し、正式に世界一流大学と一流学科を建設する137大学を選定して発表した。そのうち世界一流大学を建設する大学は42校、世界一流学科を建設する大学は95校であり、世界一流学科を建設する大学として上海海洋大学の水産学科が選ばれている。
- (2) HSKは、中国の教育部が設けた「漢語水平考試」(Hanyu Shuiping Kaoshi)の頭文字の略称で、中国語を母国語としない中国語学習者のための唯一・公認の中国語能力認定標準化国家試験である。
- (3) 「2+2」とは、中国の大学で2年次までの課程を修了した後、日本の大学で2年間(3年次編入)の課程を履修して両国の大学にて複数学位を取得するというパターンである。

〔付記〕

本稿は、平成29年度九州共立大学特別教育研究費(プロジェクト名:国際交流における留学生の受入促進と海外留学の推進に関する研究——上海海洋大学と本学の取り組みを中心に——、研究代表者:黄冬柏)の助成を受けて行った研究調査に基づいて作成したものである。研究調査および中国文化体験プログラムを実施した際、上海海洋大学国際交流処処長鍾俊生教授、外国語学院日本語学部長梁暹先生、同じく副学部長周艶紅先生をはじめ、上海海洋大学の先生方および学生スタッフの皆様にご多大のお世話になった。また、福原学

園国際交流・留学生支援室長黒木隆善先生，沈若氷さんが学生の募集から研修まで大変ご尽力くださった．ここに記して感謝の意を申し上げたい．

Received date 2018年11月22日

Accepted date 2019年1月11日